



96歳現役剣士 坂井年夫さん 剣道範士八段

大正12年生まれの96歳にして、今なお週2回、道場での稽古を欠かさない現役剣士。今回のまちの主演は、剣道範士八段、居合道範士八段の坂井年夫さんをご紹介します。



▲96歳とは思えない俊敏な体さばきをする坂井さん

極意とは
わが努力によって
生まれるものである

80年を超える剣道歴

坂井さんは大正12(1923)年生まれで、旧内日村(現下関市内)出身。10歳の頃に剣道を始め、16歳で初段を取得。時代は戦争まっただ中にあり、陸軍に志願、中国の戦地へ赴きました。戦地では、剣道は軍刀術といい、稽古は毎日の日課だったそうです。終戦は中国大陸の奥地で迎え、戦後は下関市役所に十数年勤めた後、家業の酒店を受け継ぎました。

この頃から本格的に剣道に打ち込み始め、毎日の稽古はもちろん、少年剣士への指導など、青少年の育成にも力を注ぎます。また、国

民体育大会や都道府県対抗剣道大会など、全国各地で開催される多くの大会に山口県代表として出場してきました。

最高の栄誉、功労賞を受賞

活躍の場は国内にとどまらず、市体育協合理事を務めていた昭和58(1983)年には、姉妹都市である韓国の釜山広域市との親善試合を立ち上げるなど、剣道を通じた国際交流にも貢献します。この交流をきっかけに、坂井さんは現在も、釜山広域市はもちろん、韓国の蔚山広域市や大邱広域市の道場に招かれ、現地での指導を行っています。

これらの功績が認められ、平成29年には、全日本剣道連盟から、剣道界最高の栄誉とされる剣道功労賞を受賞。また今年、日本スポーツ協会から日本スポーツグランプリを受賞しています。

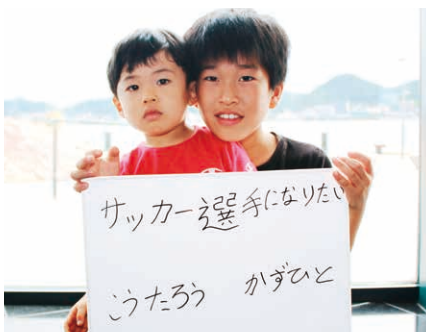
段位は剣道、居合道ともに最高





まちかどボイス

今月のテーマ
なりたい職業



◀道場で指導する坂井さん。子弟に対する座右の銘は、「極意とはわが努力によって生まれるものである」



▶妻の坂井妃呂子さん。「主人には、剣道の試合で全国各地、いろんなところに行かせてもらいました。楽しい思い出がたくさんあります」

段位の範士八段。ともに最高段位は非常に珍しく、その名は全国に轟いています。

打って反省、打たれて感謝

「今も剣道ができていることを幸せに思います」と坂井さん。長年剣道を通じて良かったと思うことは「剣道を通じて知り合った信頼できる友、剣友がたくさんできたことですね」と話します。

年齢について伺うと、「本当の剣道ができるのは、60歳を過ぎてからだと感じています。剣道にとって重要となる品位や風格はもちろん、人間としての『落ち着き』は年齢とともに備わっていくものだと思います」。剣道は敏しう性や瞬発力といった肉体的な部分だけで

編集後記

■私の父も交通安全のため、毎日、交差点に立っていました。通るとき照れ臭かったのを覚えています。そういえば、交差点で父はいつも笑顔でした。(き)
■少年剣士として6年間通った下関市武道館。三十数年ぶりに訪れました。当時私が教わった先生が今も現役でびっくり。生涯剣道って素晴らしい!(わ)
■にこやかな表情の写真を撮るために、ウケそうなることを言ってみました。全然ウケませんでした。写真も笑いとれる公務員を目指します。(ひ)

行うものではなく、駆け引きもあれば相手の隙を見るといった部分もあり、特に精神面は非常に重要だと坂井さんは話します。「剣道には、『打って反省、打たれて感謝』という言葉があります。これは相手を持って自分の至らなさに気付いて反省し、打たれることで自分の隙を相手に教わる、という考えに基づくもので、『相手に感謝する気持ちがないと成長しません。剣道は精神的な部分を修行する手段だと私は考えています」

今後については「健康体を保ち、青少年健全育成のお手伝いができたらいいですね。今なお、道場までの数キロの道のりを自転車を通う、元氣いっぱい坂井さん。96歳、まだまだ現役です！